

事例紹介大学等のプログラム概要【各地域での実施】

〔関東・甲信越地区〕

1. 新潟大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	ダブルホーム制による、いきいき学生支援 —地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本取組は、学生が日常を過ごす拠点（ホーム）を、学部・学科の領域を越えて形成するものである。学部・学科の専門教育を行う従来の拠点である第一のホームに対して、新しい第二のホームは各々24名の規模で、文系・理系・医歯系の学生が集まる総合大学の特性を活かし、学年・領域が混じって構成される。第二のホームでは、将来の学生が専門家として行う様々なサービスの受け手である生活者の視点に立って地域連携に取り組む。自分を生活者の立場に映すことや多様な価値観の人たちと話すことにより、将来学生が直面する困難な課題に適切に対応できる力が養われる。このことが、学生の生活をいきいきとしたものに変えて、悩みに陥ることを未然に防ぐ優れた予防的環境となる。また、各自の専門性を生活者の立場からより深く認識することで、学習への強い動機が得られる。第二のホームでのネットワークは卒業後も、学生個人の生活や専門性を支援する財産となる。</p>	

2. 工学院大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	いのち・つなぐ・ちから —学生連携型地域防災拠点の構築
<p>（プログラムの概要）</p> <p>都心と郊外に拠点をもち理工系大学の特色を生かした学生支援として、学生と地域社会との連携により両キャンパスを地域防災拠点とする総合的な取組である。通常授業との関連の中で、学生が中心となって地域住民と協力して実用的な地域防災マップを作成する。また、災害発生時には学生の安全を確保し、安否確認が速やかにできるシステムを作ると共に、地域住民に必要なかつ適確な情報を提供し、避難民の誘導に協力できる体制の構築を目指す。地域住民との連携をとおして、コミュニケーション能力が向上するとともに、社会貢献意識を育む。普通救命講習の受講や、発災対応型防災訓練と新宿駅滞留者対策訓練への参加によって、実践的な災害対応力を身に付けさせる。防災マップ作成や防災システム構築に主体的に関わることにより、問題解決能力を涵養する。本取組によって、学生は安心して大学生活を過ごせるだけでなく、社会的ニーズに対応した人間力が育成される。</p>	

3. 松本大学松商短期大学部（平成20年度選定）

プログラムの名称	元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出 —“治療”から“予防”へのパラダイム転換
<p>（プログラムの概要）</p> <p>経済、精神、勉学面など最近の学生が抱える問題は多い。本学も入学前から卒業までの一貫した学生支援システムを構築し、手厚く対応している。</p> <p>しかし、現に生じている問題への“治療”的対応だけでは追いつかず、根源的な解決策としての“予防”的対応強化の必要性を感じていた。これまでの萌芽的試みに対し、理論的な裏付けを行い、もっと自信を持って推進したいとの考えが本申請の背景にある。</p> <p>大学運営への学生参画で、元気なキャンパスという雰囲気醸し出し、その中で学生が自力で自らの課題を解決する仕組みを創出したい。</p> <p>そのため、①学生を側面支援する職員のSD活動、②教職員の連携強化を図る。③湘北短大との相互点検・評価に付随した学生間交流での武者修行、④大学と一体となって進める社会体験活動で、コミュニケーション、プレゼンテーション能力等の社会的スキルを涵養する。こうした人材の地元定着は、地域の地盤沈下防止に役立つであろう。</p>	